

令和4年総務企画委員会会議録

1. 招集年月日 令和4年2月15日
2. 招集の場所 可児市役所5階全員協議会室
3. 開 会 令和4年2月15日 午後1時01分 委員長宣告

4. 審査事項

1. 報告事項

(1) シティプロモーション推進事業の状況について

2. その他

5. 出席委員 (7名)

委員長	野呂和久	副委員長	天羽良明
委員	亀谷光	委員	富田牧子
委員	澤野伸	委員	大平伸二
委員	松尾和樹		

6. 欠席委員 なし

7. 説明のため出席した者の職氏名

市長公室長	尾関邦彦	秘書広報課長	飯田好晴
-------	------	--------	------

8. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	宮崎卓也	議会総務課長	下園芳明
議会事務局 書記	土屋晃太郎	議会事務局 書記	桜井孝治

○委員長（野呂和久君） こんにちは。ただいまから総務企画委員会を開会します。

今回、会期前委員会を開催させていただいたんですけれども、前委員会からの引継ぎ事項にもあります可児市のシティプロモーションについてということで、今回、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」で注目を集めた明智光秀、美濃金山城などの山城、木曾川渡し場遊歩道等の地域資源について効果的な情報発信が行われているかを検証するとともに、市民の誇りづくりにつながる結果となるよう注視していくことということで、前委員会の引継ぎをいただいております。その関係で、今回委員会を開催させていただきます。

また、大河ドラマも終了した後、令和3年度、今年度ですけれども、執行部の最重点施策の一つにシティプロモーションということも掲げられております。

今回、令和3年度の事業の総括ということの意味で執行部から説明を求め、令和4年度の予算審議などにつなげていきたいということで委員会を開催いたしました。

なお、天羽副委員長と松尾委員は、本日、オンラインによる出席となります。

それでは、これより議事に入ります。

初めに、1. 報告事項、シティプロモーション推進事業の状況についてを議題とします。執行部の説明を求めます。

○市長公室長（尾関邦彦君） よろしくお願ひいたします。

今日はシティプロモーション推進事業の状況ということでございますので、令和3年度の事業の進捗状況を中心に御説明させていただきます。

また、令和4年度につきましても、予算書の配付がまだ後日ということですので、口頭になりますけれども概要につきまして御説明させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、課長のほうから説明いたします。

○秘書広報課長（飯田好晴君） では、失礼します。

令和3年度の事業の執行状況につきまして、お手元の資料1に沿いまして御説明させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

シティプロモーション推進事業につきましては、令和3年度の可児市予算の概要冒頭の予算編成方針等にもございます「住みごこち一番・可児～安心、元気、楽しいまち～の推進」の実現に向けた取組といたしまして、重点方針の3. 地域経済の元気づくりを構成する事業として位置づけ執行しておるところでございます。

今年度行いました主な事業といたしましては、お手元の資料のまず①でございますけれども、5月16日日曜日に、現在のぎふワールド・ローズガーデン、旧花フェスタ記念公園でございますが、に明智荘の館を開館いたしました。

年度初めの慌ただしい中でございましたが、春のよい季節にオープンをということで開館を急ぎまして、光秀生誕地の地を基軸とした市の魅力を展示し、同公園に訪れられましたお客さんの誘客など、相乗効果も見込みながらの運営を開始したところでございます。

今年度も、昨年度に引き続きましてコロナ禍にございまして、あまり積極的な誘客活動を行うことができませんでしたが、8月には児童・生徒の夏休みの期間に合わせまして「麒麟がくる」で実際に撮影された甲冑を展示した特別展示を開催しまして、現在は1月8日から年度末までの予定で岐阜県とも連携しまして、「決戦はいつも岐阜」と題し、承久の乱をはじめ関ヶ原の合戦など、歴史を左右した合戦に関連した特別展を行っておりまして、現在はパネル展示のほかに、2012年の大河ドラマ「平清盛」で使用されました甲冑であるとか、あとは牛車の展示を行っております。

感染拡大の折でありましてあまり積極的なPRはできませんが、ぜひ御覧をいただければというふうに思っている次第です。

今後、コロナ禍が解消された後は、この場所を中心としたイベントの開催など、観光交流課等とも連携しながら市の魅力発信を効果的に行ってまいりたいというふうに考えておるところでございます。

続きまして、②番になりますが、7月4日日曜日に、住み心地一番・可児市デーということをしてPRすべく、中日ドラゴンズのスポンサーゲームを行いました。ドラゴンズ対スワローズ戦の対戦にコロナ感染防止規程で約8,500人の上制限がかかっておりましたけれども、その中で8,351人という動員をすることができ、試合当日は場内のビジョンの掲示であるとかアナウンス、それから通路の各所に設置されたのぼり旗等により球場内が可児市の文字で満たされました。

そのほか、市のPR冊子等の観客への配布も行っております。

また、始球式を浅尾美和さんをお願いしたことによりまして、新聞や浅尾さんの出演番組、あるいはドラゴンズの公式ツイッターなどでも紹介されまして、SNS等でも話題となったところでした。

この事業につきましては、令和2年度から主に東海3県の方々に大河ドラマ館をはじめとする市内のスポットにお越しいただいたり、可児市のよさを知っていただくきっかけづくりとして始めたものでございまして、今年度で2回目の実施となったところでございます。

続きまして、③番、市のホームページのリニューアルでございます。

市のホームページにつきましては、平成25年度に細部のリニューアルが行われて以来、大規模なリニューアルが行われておりませんでしたので、デザインとしても現在の流行とは合わず、少し古いイメージが否めない状況でした。

ネット上の市の玄関口ともなる場所ですので、イメージアップや検索のしやすさなどを目的にしまして、これの改修を今年度行ったものでございます。

一般的な契約になりますと多額の予算が必要となりますので、専門業者でなくてはできない修正ポイントに絞りまして委託をお願いしまして、その他、不足する作業につきましては職員のマンパワーで改修作業を行ったところでした。

1月末には一定のリニューアルを完了しておるところでございます。

以上が、資料に書いてあります1、2、3番でございまして、次にその他になります。

すみません、今日、当日、補足ということで資料を配付させていただきましたので、リモート出席の皆さんのお手元にはちょっと資料がなかりかと思えますけれども、口頭でも含めて説明させていただきたいというふうに思います。

その他として、2種類の資料を配っております。

1つ目が、このカラーの裏表でお配りしましたものの説明になりまして、御覧いただきたいのは、岐阜県可児市トクバイトップページの知名度アッププロモーションキャンペーンページというところからでございます。裏表になりますけれども、これにつきましては、情報アプリケーションを利用した市のPRというようなことで試験的に行ったものでございます。

この事業につきましては、ふるさと納税の誘導も兼ねた企画としまして、当該主管課の財政課と協働で行ったものでございます。

明智荘の館というのは、その環境を整備しまして可児市に来ていただく方に市への来訪を誘導しながら市の魅力を伝えていくという施設でありまして、東海環状自動車道の利便性からも、主なターゲットとしては東海3県の方に向けた取組であるということもいえようかと思えます。また、市民の皆さんにも気軽に訪れていただいて市の魅力を再確認していただく施設という、そういった位置づけもでございます。

今年度におきましては、コロナ禍にありましてこうした交流人口の増加に向けた積極的な手段が取れない中、もがき苦しむというような状態が続いたわけでございますけれども、今後のウイズコロナの時代を踏まえた市の取組としまして、対外的にいかに効果的な情報を届けていくのかに視点を置き、その手法について検討したところでございます。

その結果、広告というような手法の一つとして株式会社ロゴガイドという会社、今は経営統合をしましてくふうカンパニーという会社に名前が変更しておりますけれども、ここが運営しております情報アプリケーション、これはスマホのアプリになりますけれども、これを利用した関東圏、それから東京及び……。

すみません、今、メモをいただきまして、メールでオンライン出席の方にも資料をお送りしたということでございますので、お手元があれば御覧いただきたいと思えます。

スマートフォンのアプリを利用しました、関東圏、東京及び周辺の3県、これは千葉県と埼玉県と神奈川県になりますけれども、これに対する市のPRを試験的に行ったところでございます。

具体的に申しますと、お手元の資料に概略がございましてけれども、同社が運営するトクバイというアプリ、これは主に居住する地域のスーパーなどの最新のチラシを毎日掲示していくというアプリでございまして、一般的に新聞の購読者が減少しているという中におきまして、チラシ情報の取得のために多くのユーザーの方、特に30代から50代の子育て世代が利用しているというようなアプリでございまして、この利用が毎月1,500万回から1,800万回あると、そういったアプリでございまして。

そのアプリを利用しまして、このサイトを閲覧している関東圏のユーザーのスマホの画面に、資料にあるように可児市のPRサイトを表示させて、そのサイトをクリックして入って

いただいた方に市の魅力を編集しました動画を見ていただいて、それをヒントにクイズに解答いただきまして、全問正解の方の中から抽選で市の特産品をプレゼントするという企画を行ったものでございます。

特産品をプレゼントするという一方で、ふるさと納税のPRも併せて行うといった取組としたものでございまして、そのプレゼント代につきましては財政課のほうの負担ということで行ったものです。

期間としましては、10月20日から、ここには7日間と書いておりますけれども、最終的には28日の9日間で行いまして、アプリの画面に延べ200万回、可児市のPR効果を表示したというようなこととございます。

裏を見ていただくとクイズの雰囲気が出ておりますので御覧いただきたいと思いますが、こういったクイズを出して答えていただくという形です。

それで御応募いただくわけですが、この御応募にはメールアドレスを書いていただくことが必須ということで条件を課しております、応募していただいた方につきましては今後もそのアドレスに向けて市の魅力に関する情報を送ることができるということになります。

今回の企画で約1,800人の方のメールアドレスを取得することができました。これらの方々に対しましては、昨年末に2回、ふるさと納税の追い込み時期になりますけれども、12月に可児市へのふるさと納税をPRするメールを財政課から発信しております。

今後も、折を見ながらこうしたPRを直接配信していくというような予定にしております。

こうしたメールアドレスにつきましては、基本的には取得できないものでありますし、1,800人分を一気に集めるということは、通常、困難であろうかと思っております。

また、市のPR動画の閲覧数につきましても、このキャンペーンが始まる前の閲覧数が814回であったものが終了時には3,425回ということで、非常に多くの方に御覧いただいたということとございます。

チラシ等を配布するという手法も基本的にあるわけですが、その効果というものはなかなか目に見えないものになりますが、今回、こうした一応数字で表すことができたということにつきましても一定の成果は得られたのではないかとこのように考えているところでございます。

アフターコロナを間もなく迎えて、今後、生活様態の変化やそれに伴う技術革新がこれまでにないスピードで進んでいくものと考えられます。

市としても、デジタルトランスフォーメーションの推進を見ながら、こうした様々な新たな取組を積極的に、スピーディーに取り組んでいく必要があるのかなど、そんなことを考えているところでございます。

以上が、1点目でございます。

もう一つ、お手元にお配りしております。小牧・長久手の戦い同盟への加盟という資料を御覧ください。

この同盟につきましては、昨年の11月に小牧市、長久手市、日進市、春日井市、犬山市の愛知県の5市によりまして既に旗揚げがされておるものでございまして、御存じの方も多いかと思えますけれども、今般、新規加盟として、尾張旭市、瀬戸市に加え、唯一、県外から可児市の加盟の運びとなったということでございます。

各市の調整や事務手続上、1月28日の新規加入ということで盟約書が届いておりまして、この発表につきましては、3市の調整によりまして、あさって17日に3市同時に発表をする運びとしております。

小牧・長久手の戦いを語る上で、美濃金山城主、森長可はなくてはならない存在でございまして、また可児市内に点在する山城につきましても、森氏がこの合戦に際して、家康・織田信雄連合軍の南方からの侵攻に備え整備強化した姿が現在残されております。この合戦と可児市との関わりは非常に深いことから、唯一、県外からの加盟となったものです。

この同盟の在り方につきましては、いわゆる協議会のような組織をつくり、事業を行うといったものではなく、それぞれの市が単独でPRをしてもなかなか効果が波及しないことが考えられる中、同盟した全市でそれぞれの予算を使いながら互恵の関係をもって広域でのPRを行っていくことを趣旨としております。したがって、この同盟に関する負担金等の予算は発生いたしません。あくまで、穏やかに連携しながら小牧・長久手の戦いの地を世に広めていく狙いでございます。

2枚目に盟約書がありますので、御覧ください。

冒頭に書いてある言葉、真の天下分け目の一戦は小牧・長久手の戦いであるとあります。

この由来となっているものにつきましては、江戸時代後期の歴史家、頼山陽と申しますが、頼山陽が著してベストセラーとなりました日本外史という著作の中の言葉でございます。

つまり、家康が天下を取った合戦というのは一般的に関ヶ原の合戦であるというふうに思われているわけですが、実際は歴史をよく見ますとそうではなくて、小牧・長久手において家康が秀吉に対し野戦で勝利したことが後の家康の箔につながり、天下取りへの道が開いたといった視点、またこの合戦で、もしも家康が敗れていたら、後の江戸幕府はなかったという、まさに日本の後の歴史をつくった合戦であるということを世にPRしまして、ゆかりの地に訪れていただく、こういったことを目的としているということが書いてございます。

また、この時期に同盟がなされた理由としましては、次のNHKの大河ドラマが「どうする家康」であることが決まったこととございます。

家康の生涯を描くということから、生涯において家康がどうすると考える局面は多々あるんですけれども、その考える局面の大きな山場としてこの小牧・長久手の戦いが描かれることを期しての取組となります。

多くの観光客を抱える犬山市をはじめとしまして、愛知県の都市との連携は今後の交流人口の拡大に向けた一つのキーポイントとして大切に取り組んでいけたらというふうに思っております。

なお、この件につきましては、本日、この後、全議員さんにこの文書を配付するという
ことで報告させていただきますけれども、先ほど申しましたとおり、3市の調整によりあさ
つて17日に記者配信ということを用意しておりますので、情報の取扱いには御留意いた
きたいというふうに思います。よろしくお願ひします。

今年度シティプロモーション係が主管して行った主な事業概要は以上となつてまい
ります。

あわせまして令和4年度の内容も一気にお話ししますけれども、御案内のとおり予算書
の配付が22日となるようなこともございますので、本日はまさに概要となりますけれど
も、基本的には今説明いたしました、令和3年度に行いました事業を継続する、そ
ういった方針でございます。

ホームページにつきましては、リニューアルを完了しております。また、今説明いた
したような他市との連携とか、あるいは企業、そういったものとの連携についても、
今後検討していきたいというようなことを考えておるといふような状況でございま
す。以上です。

○委員長（野呂和久君） 執行部からの説明、ありがとうございます。

それでは、質疑のほうに移りたいと思います。

意見や質疑等はございましたでしょうか。

○委員（富田牧子君） すみません、このトクバイトップページというのを聞きたい
わけですが、これをやってもらうのに費用はどれぐらいかかったのかということと、
激しくいろんなことが入れ替わりする中でこういうものを使って、それは知名度
アップということも必要かもしれないんですけど、やったら、やっぱり本当に
費用対効果はどうだったのかということとをきちっと出していただくという
ことが必要じゃないかなと思うんですけど、どうですか。

○秘書広報課長（飯田好晴君） 委託料につきましては148万5,000円でお願
ひしているところ
です。

これは、一般的な数字になりますけれども、こういった200万回ほどの表示をこ
ういうアプリ上である、あるいは1,800件程度のメールアドレスを取得するとい
うような事業規模になりますと、いわゆる大手のホームページなんかを運営して
いる業者に依頼しますと、多分この10倍はくだらないのではないかと
いふような費用が例示をしてございまして、そういった意味では非常に割安
といつてはあれですけども、なかなか少ない金額でできたのではないかな
といふふうには考えておるところです。

それから、効果につきましては、これはなかなか推しはかれないところ
でございまして、先ほど少し申しましたけれども、チラシ等を配つても同様に、
これを配つたからこうなつたといふことは難しいわけ
でございまして、財政課のほうに確認しますと、いろんな要因はあると思
いますが、ふるさと納税の額につきましては昨年度比で非常に増額になつて
おるといふことを聞いておるところでございまして、以上です。

○委員（富田牧子君） それで、割安でできたから今後もやっぱりこ
ういふ形を続けていこうといふふうにお考えですか。

○秘書広報課長（飯田好晴君） 先ほど最後に申し上げましたけれども、
令和4年度につつま

しても令和3年の内容については踏襲したいというふうに考えておりますので、一度試行的にやってみまして、他市の事例も見ましたけれども、他市程度の効果は得られておるということが確認しておりますので、令和4年度につきましてももう一度やらせていただければというふうに考えておるところでございます。

○委員長（野呂和久君） すみません、今の関連ですけれども、1都3県というところにされた理由は为什么呢。

○秘書広報課長（飯田好晴君） 途中でも少し触れましたが、基本的に明智荘の館等につきましては、近隣の方、東海3県ということがどうしても距離的に目的になってしまうということが一面あると思いますので、そういったものでなく、遠方の、今リモートワーク等の関係で都市圏から人口が流出しておるといような予測でもあるところでもございますけれども、そういったところを見ながら、関東圏、里帰りを少ししてみようかなと思ってみえるような方であるとか、そういった方に対してこういった発信ができたらということに取り組んだところではあります。以上です。

○委員長（野呂和久君） 例えば、昨年の予算決算委員会の予算の審議のときに、移住支援事業というのを県と市でということで1都3県から移住されてきた場合の補助事業があったと思うんですが、そうしたことの関連というのはないということでしょうか。

○秘書広報課長（飯田好晴君） 関連はないということではございませんが、直接的な関係はございませんけど、目的としては同じであるというふうに考えております。以上です。

○委員（富田牧子君） ちょっと聞きたいんですけど、何で飛騨牛なんですかっていうことなんですよね。飛騨牛がいけないというわけじゃないけど、ちょっと前だったら、可児市だったら里芋焼酎だとかなんだとか、そういうふうなことで、いわゆるその地産地消みたいな感じで、景品といたらおかしいけど考えたと思いますけど、ここは牧場もないし、なかなか魅力的な景品だというふうには思いますけれども、もっと可児市らしさとか、そういうのはやっぱりないんですかね。

○秘書広報課長（飯田好晴君） 今、委員が御指摘のとおり、私も同様なことを考えたわけですが、やはりこういった企画の場合、まずクリックしていただくということがないと何の意味もないということで、そういった統計的なものを見ましても、この牛というのが一番需要が多い。まずそこから入っていただいて可児市を知っていただくということで、先ほどちょっと申しましたけれども、その後にこのメールの方に対しまして特産品等についての内容をお送りしておりますので、その二次的などころで可児市を知っていただくというように取組んでおります。以上です。

○委員（澤野 伸君） 取組としては大変有効的かなというふうに思いますし、その1,800件のアドレスを取れたというのは非常に大きいことだと思います。

今後のことなんですけれども、先ほど他市との連携で小牧・長久手の戦いの同盟ということで、大河ドラマ「どうする家康」もわかりですけれども、今、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の関係もあって、何とかコロナ禍後、可児市に来てもらうために、この1,800件のアド

レスに向けて、例えば今の明智荘の館等々の魅力を発信しながら入場券を送るとか、何らかのそういったメリッ的な、その1,800件の方々にメリットを与えて、ちょっとこっちに来てもらう窓口になるとか。

例えばこの同盟を使いながら、例えば犬山城の入城とうちとの連携とか、何かちょっとそういうきっかけ、こっちに来るきっかけを、ただ券をあげるから来てという言い方でちょっと悪いんですけど、少しそういう、1,800件の方々はこっちに目を向けていただいているので、近隣にもこういうところもあるので一緒にどうですか、みたいな入場チケットないしそういうものの、割引券でもいいですけども、そういったものを直接的に発信していくと。

ほとんどちょっと旅行会社みたいなプレゼンの仕方になっちゃうんですけど、せっかくいい情報を確保できたということでしたので、またうまく広げて対応していただけると、今後にもつながるので大変楽しみかなというふうに思いますけれども、そういったお考えというのはどうでしょうか。

○秘書広報課長（飯田好晴君） ありがとうございます。

御指摘、ごもっともございまして、ぜひともそのような形でこの貴重な情報を生かしていきたいというふうに考えておりますが、内容については今のところまだ具体化はしておりませんが、そういった方向で関係市等とも連携しながら、あるいは明智荘の館にも来ていただくような、そういったインセンティブを設けながらやっていけたらなというふうには考えておりますし、またちょっと申し上げましたけれども、また新年度も、予算のほうにこの点をお認めいただければやりたいというふうに思っておりますので、そうするとまたアドレスの数も増えてまいりますので、そういった方に向けても発信をしてまいりたいというふうに思っております。以上です。

○委員（亀谷 光君） 小牧・長久手の戦い同盟について、ちょっとお聞きしたいと思います。

長久手の戦いの絵図は、立派なものが犬山市に、具体的に日本の書籍に載っているような現物が成瀬家の文庫にあるんですね。それはそれとして、実は小牧・長久手の戦いで武功をなした森武蔵守長可の首塚が鳩吹台の真禅寺の裏にあるというような、これはいろいろと可児市の文献にあるんですけど、あれを今回いい機会だと思いますけれども、市としては首塚がある、いわゆる墓があるという表示があるんですとあって、あの中身については私も地元ながら幼い頃は父に聞いたりしておるだけで、特定をしていないんですね。

それで、これは特に明智光秀の関係で尾張とかよそから見える人が、時々訪ねてみえたときに、私も分からんもんで説明ができない、分からないと。この今の小牧・長久手の戦いで武功をなした長可の首塚の墓があるというのは、あれはどういう位置づけになっているんでしょうかね、市としては。

○秘書広報課長（飯田好晴君） 文化財的な取扱いにつきましては、すみません、ちょっと文化財課ではないんで申し上げづらいんですけども、基本的に地域に残る伝承でございまして、あと兼山地区においてもその伝承は残っておりまして、実際に真禅寺の裏にはそういったお墓がございまして、そういった伝承があるということは伝えていくべきことであろう

かというふうに思っておりますし、実際にはね橋を落としてそこで引き返してあそこに埋めたという話もございますし、真禅寺については、当時、森家の庇護の下にあったお寺ということも私の中では理解しておりますので、こうした機会にもう少しPRをとってお話かと思えますけれども、そういうことはあるのではないかなというふうに考えます。

○委員（亀谷 光君） そうですね。PRするというか、知っている人は多いんだけど、現実的史実をどう説明するかということで苦慮するんですよ。

それで、同盟は同盟でやるんだけど、具体的活動はしないよとさっきおっしゃったように、あくまでも同盟でしょうが、きつこういふものを発信するといろんな美濃・尾張の歴史研究の人たちもやっぱり出かけておいでになると、小牧・長久手の戦いでは可児市は武蔵守ですから、それをどう説明するかという形をできればつくっておいていただいて、そつのない中身をこさえておいていただくと。いわゆる創造しちゃいかんですけれども、史実をどう伝えるかを位置づけだけ。文化財課としてでしょうけれども、シティプロモーションとして、あるいはどう捉えてどう生かすかということプロデュースというか、考えていただきたいなと思うんです。

私にも思案はあるんですけども、あくまでも執行部としてどうかということを整えていただけんかなと思っています。以上ですが。

○秘書広報課長（飯田好晴君） 御指摘、ありがとうございます。

そうですね、効果的な情報を発信していくためには各市が統一的な見解を持って協調してPRしていく必要があると思いますので、その辺りの共有の認識というものは築き上げていくということで考えております。よろしくをお願いします。

○委員長（野呂和久君） それでは、オンラインでつながって見えます天羽副委員長、よろしくをお願いします。

○副委員長（天羽良明君） 皆さん、どうもすみません。

澤野委員の声も富田委員の声もよく聞こえてまして、本当にありがとうございます。

私の声はよく聞こえますでしょうか。

[「はい」の声あり]

ありがとうございます。

今、澤野委員も亀谷委員も言われましたけれども、やっぱりあそこに行ってみたいなというふうに思う仕掛けをいっぱいつくっていただくことが一番かなというふうに思います。冒頭からの説明でも、やはり明智荘の館という拠点を持ったことによってこれを充実させていくことで、きちっとNHKのほうと連携をさらに深めていっていただくことで、可児市全体のPRが進んでいくのではないかなというふうに期待をしております。

2月20日に予定をされていた可児シティマラソンは中止となりましたけれども、その中止通知の封筒には、ゼッケンも入ってございましたけれども、ふらっと可児あるきとか山城のまち可児市というもののパンフレットを入れていただいております、これは今までシティマラソンの景品では参加ができていたからかは分かりませんが、中止の連絡もこうした温かみ

のある、これは木曾川渡し場遊歩道のかぐや姫の散歩道の写真なんかも、これを見たらここへ行ってみたいなというふうに思うようなものが同封されていて、とてもよかったなというふうに思います。

また、今後もその明智荘の館でいろんなことを発信していただきたいと思いますと思うんですが、この「平清盛」の甲冑なんかは本当に貴重なものだと思っておるんですが、当時、兵庫県神戸市のほうで大河ドラマ館、この「平清盛」も私も行ったことがありますて、とても懐かしいなと思えました。こういったものをお借りするのは、費用というのはどうなっているのでしょうか。

○秘書広報課長（飯田好晴君） これにつきましては、岐阜県がどちらかという主催的な立場に立っておられまして、そちらのほうで御用意をいただいておりますというようになります。以上です。

○副委員長（天羽良明君） はい、ありがとうございます。

○委員長（野呂和久君） それでは、他に質疑はございませんでしょうか。

○委員（亀谷 光君） ちょっと意見を。遅れてすみません。

この件と別なんですけど、金山越というのが富加町の方たち、あるいはいろいろな形で、犬山市もさることながら、今、あるんですね。

それで、これは犬山市のことだろうけれども、当然、兼山のほうの方は昔から戦があったということで大きく論争されるものではないんだけど、この事実、現実を今度、徳川、要するに関ヶ原の戦いに大きく関係をしているということが何か掘り下げられているようなんですね。

したがって、私ども可児市ですけれども、その金山越について一般の方はあまり詳しく御存じないということで、むしろ犬山市の方は御存じで、その辺のことを時々市民の方が聞かれたりするので、これは逆手に取ってシティプロモーションとして金山越を可児市も取り上げていくことはどうかなというふうに思うんですけれども、金山越についてはシティプロモーションの一端を担うか担わないかということで、市のほうはどうなんでしょうかね、この辺の件は。

○秘書広報課長（飯田好晴君） ありがとうございます。

金山越につきましては、明智荘の館のパネルなんかでも少し紹介させておっていただきますし、あるいは冊子なんかでも今のところあまり目立っておりませんが、そういった伝承があったということについては取り上げさせていただいているところでございまして、確かに最近の知見を見ましてもそういったお話が非常に現実味が出てきたというような傾向もございまして、そういったところも含めて市としてもPRのポイントとして取り上げていくことは非常にあるのではないかなというふうに考えております。以上です。

○委員長（野呂和久君） オンライン出席の松尾委員、よろしかったでしょうか。

○委員（松尾和樹君） ありがとうございます。挙手させていただいております。

質問させていただきます資料1②の中日ドラゴンズの可児市デーに関して、始球式に浅尾

美和さんを起用してということで、浅尾美和さんが出演されているテレビ番組等にも取り上げられて一定の効果があつたというようなお話だつたと思うんですけども、今後、可児市のシティプロモーションを進めていく上で、また浅尾美和さんをお願いするというような話し合い等をされていたりとかというのがあるのかどうかは、お伺いはできますでしょうか。

○秘書広報課長（飯田好晴君） ありがとうございます。

始球式につきましてはまた別でということになると思いますけれども、浅尾さんにつきましては、ちょっと今はコロナ禍の関係でなかなか難しいところがあるんですけども、市のPRの動画等にもまたお出いただきまして、市民として市のPRに出ていただくというところはお願いしているところでございます。以上です。

○委員（松尾和樹君） ありがとうございます。よく分かりました。

それから、次の質問なんですけど、③番目の市ホームページのリニューアルに関連してなんですけど、御説明では予算を抑えるためにポイントを絞つたというようなお話があつたと思うんですけど、そのポイントというのがどの辺りなのかということのを少し詳しく教えてくださいませんか。

○秘書広報課長（飯田好晴君） ポイントといいますのは、いわゆるホームページに係る作業を全部委託してしまえば、もう何千万円クラスの作業になってくるんですけども、その中で、どうしてもシステム移行は専門的な知識というか、システムを持ってやるしかない部分があるんですけども、その部分については委託しますけれども、その他の、市のパソコンで準備してあちらに整理してお送りする作業であるとか、そういった職員ができる仕事につきましては市の職員でやっていったというところで、極力委託の業務量を減らしたというような意味合いでございます。以上です。

○委員（松尾和樹君） それでは、今後なんですけど、例えばこれを見ますと、可児市からのお知らせとか更新をしていく部分があると思うんですけど、こういった部分は費用をかけずに職員のほうでされていくというようなことになりませんか。

○秘書広報課長（飯田好晴君） 更新につきましてはこれまでも、各課でもできますし、主管課でもできるんですけども、基本的に職員でやっておるところでございまして、今後もそのようにさせていただく予定でございまして。

保守料は、年間かかっておりますけれども、それ以外の作業については基本的に職員でやると。どうしてもトラブルがあつた場合につきましてはお願いする場合もございまして、そういったものは保守料に含まれる部分もあろうかと思いますが基本的には職員で行っております。以上です。

○委員長（野呂和久君） それでは、他に質疑がないようでしたら、以上で終了したいと思います。

〔挙手する者なし〕

発言もないようですので、この件に関しては終了といたします。

ここで、議事の都合により暫時休憩とします。

以降の議事は委員のみで行いますので、執行部の方は御退席いただいて結構でございます。
ありがとうございました。

休憩 午後 1 時43分

再開 午後 1 時43分

○委員長（野呂和久君） それでは、会議を再開します。

2. その他に移ります。

連絡事項、議会報告会消防団との懇談会につきましては、コロナ禍の関係で延期ということにさせていただきましたが、次回開催も検討しております、日時は4月16日土曜日の10時30分から、場所は総合会館の5階で開催するよう、今、準備を進めさせていただいております。

また、事前勉強会についても、二、三日前に開催できるように調整を図っていきたいというふうに思いますので、決定をいたしましたらまた御連絡をさせていただきます。

次に、天羽副委員長のほうから提案をお願いできますか。

○副委員長（天羽良明君） 皆さん、すみません、度々。

本当に消防団の皆さんとの議会報告会を皆さんも楽しみにしていたと思うんですが、こういった状況のため4月ということで皆さんと一緒に臨みたいというふうに思います。

先ほどのシティプロモーションのお話にもありましたけれども、次の総務企画委員会があったその日に、もしできればですが、明智荘の館のほうに審議が全部終わってから皆さんと行くことで、いろいろな目で感じたこととかを、どういうふうに可児市以外の方々にもっと来ていただく魅力ある明智荘にしていっていいんじゃないかというような、いろんな現場を見て感じるころもあろうかと思っておりますので、ぜひ皆さんと一緒に明智荘の館に委員会の日に行きたいというふうに思っております。

御提案のほうをしましたが、よろしくお願ひします。

○委員長（野呂和久君） 今、天羽副委員長から提案がありましたけれども、今日ではありませんが、委員会の終了後にぎふワールド・ローズガーデンの敷地内にあります明智荘の館の委員会視察という形で進めたいという意見でございましたが、いかがでしょうか。

○委員（澤野 伸君） 3月14日だよ。

○委員長（野呂和久君） 予定としては14日を予定しておりますが、当日、予算決算委員会が絡んできて委員会はその後ということなので、時間もちょっと確認をしながら、また日程等も決めていきたいと思っております。

タイトでなければその日に行きたいと思っておりますが、また調整させていただきます。
よろしくお願ひします。

○副委員長（天羽良明君） ありがとうございます。

○委員長（野呂和久君） 他の委員のほうから、ほかに何か、特にありますでしょうか。

[挙手する者なし]

それでは、以上で本日予定の案件は全て終了しました。

それでは、これにて総務企画委員会を閉会いたします。お疲れさまでございました。ありがとうございました。

閉会 午後1時47分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和4年2月15日

可児市総務企画委員会委員長